

認識様相の表出主義と義務様相の表出主義

水谷 亮介 (Ryosuke Mizutani)

九州大学人文科学研究院

表出主義とは本来「べき」や「よい」などの規範語についてのメタ倫理的立場であるが、近年、規範語以外のさまざまな言語表現に応用が試みられており、とりわけ認識様相の表出主義は説得力のある理論として知られる。本発表の目的は、認識様相の表出主義の議論で得られた知見を元のメタ倫理的表出主義へとフィードバックすることで、メタ倫理的表出主義をより精緻なものへと改善することにある。

フレーゲ=ゲーチ問題は長くメタ倫理的表出主義を苦しめてきた難問であるが、ギバードは可能世界意味論を応用した独自の形式意味論を考案し、この難問に対する有力な解答を提出した (Gibbard 2003)。しかしこの解答には欠点が指摘されている (Schroeder 2008, 2015)。この形式意味論には二種類の解釈がありうるが、いずれも哲学的な困難を抱えているのである。ただし、私の考えでは、こうした指摘だけではギバードの形式意味論に対する決定的な反論とまでは言えない。

以上のことを背景として、本発表ではまず、認識様相の表出主義 (Yalcin 2007, 2012; Charlow 2015) がもし正しいとすると、ギバードの形式意味論とその哲学的解釈に対する決定的な反論が得られると指摘する。

次いで本発表では、ギバードの形式意味論に代わる新たな表出主義的形式意味論はどのようなものでありうるかを、やはり認識様相の表出主義を手がかりに構想する。ヤルシンとチャーロウはどちらも、認識様相と義務様相に対する表出主義的な形式意味論を提示している。だがヤルシンの意味論はその枠組みとして真理条件意味論を採用しているために、メタ倫理的表出主義の基本思想とは相容れないように思われる。チャーロウの意味論は更新意味論 (Veltman 1996) を利用するため非記述主義的な形式意味論にはなっているものの、果たして「表出主義」の名に値するかは疑わしい。ギバードの考えに沿うならば、表出主義的な形式意味論において、文の意味論的値はその文の発話によって表出される心的状態でなければならない。だがチャーロウの意味論ではそのようになっていない。

以上の考察を踏まえて本発表では、更新意味論の記法異型 (notational variant) を構成し、新たな形式意味論の枠組みとすることを提案したい。この形式意味論は、メタ倫理的表出主義の基本思想との相性がよく、しかもギバードの形式意味論よりも哲学的解釈において問題が少ないという利点を持つ。

ただし、現行の標準的な更新意味論を利用するだけでは、フレーゲ=ゲーチ問題の完全な解決には至らない。しかし更新意味論に関する議論の蓄積 (cf. Cariani 2017) を踏まえれば、フレーゲ=ゲーチ問題の解決への見通しは明るいと考えられる。本発表ではその見通しについても言及する。

参考文献

- Cariani, Fabrizio (2017). Choice Points for a Modal Theory of Disjunction. *Topoi* 36 (1):171-181.
- Charlow, Nate (2015). Prospects for an Expressivist Theory of Meaning. *Philosophers' Imprint* 15:1-43.
- Gibbard, Allan (2003). *Thinking How to Live*. Cambridge: Harvard University Press.
- Schroeder, Mark (2008). How Expressivists Can and Should Solve Their Problem with Negation. *Nous* 42 (4):573-599.
- Schroeder, Mark (2015). Higher-Order Attitudes, Frege's Abyss, and the Truth in Propositions. In Mark Timmons (ed.), *Reason, Value, and Respect: Kantian Themes From the Philosophy of Thomas E. Hill, Jr.* New York, NY: Oxford University Press.
- Veltman, Frank (1996). Defaults in Update Semantics. *Journal of Philosophical Logic* 25 (3):221 - 261.
- Yalcin, Seth (2007). Epistemic Modals. *Mind* 116 (464):983-1026.
- Yalcin, Seth (2012). Bayesian Expressivism. *Proceedings of the Aristotelian Society* 112 (2pt2):123-160.